



くもちろん12月24日は、イエス・キリスト誕生の前夜祭のクリスマス・イブ  
 イエスの誕生は紀元前4年と伝えられ、ローマの冬至の収穫祭と結びついて、12月25日となったそ  
 うです。クリスマスを Xmas と表すのは、ギリシャ語で X が「キリスト」、mas は「祭日」。サンタ  
 クロースはトルコの司教のセント・ニコラスが訛ったもの。クリスマスツリーは樅の木で、常緑樹  
 の強い生命力にあやかるため。「靴下・靴」にはその人の魂がこもっていると考えられツリーに飾られます。

このニュースは <http://sousou9.web.fc2.com> あるいは「相双地区九条の会フォーラム」、さらに「はらま  
 ち九条の会」で1号から全号を見ることができます。相双地区の他の会のニュースもどうぞ!



### 原町の詩

原町市にて 石垣りん

原町はなんにもないところす  
 町の人が言いました。

なんにもないところす  
 降り立つと、その足で料亭へ案内され  
 福島県詩祭の前夜祭がはじまっています。

宴席で お銚子片手のひとりが 私に語りかけてくれたこと  
 夜が明けると 無線塔が見えるでしょう  
 関東大震災の第一報を サンフランシスコに向けて打電した記念の塔です  
 アメリカからは どっと救援物資が送られて来ました。

大正十二年 私は三歳  
 場所は東京港区 当時の赤坂区役所の中庭のあたり  
 被災者が行列をつくって 救援品受取りの順番を待っていたらしいこと  
 私には誰の手にも届かなくて 救済品受取りの順番を待っていたらしいこと  
 翌年死んだ 二十九歳の母だったかも知れない  
 かすかな記憶が 手のひらを伝った  
 遠い無線塔からの電波。

コンクリートで固めた 円錐形の高さ二百メートルの塔は 私をはじめ  
 目にした十日後に 取り壊し開始の運命にありました  
 昭和五十六年 秋。

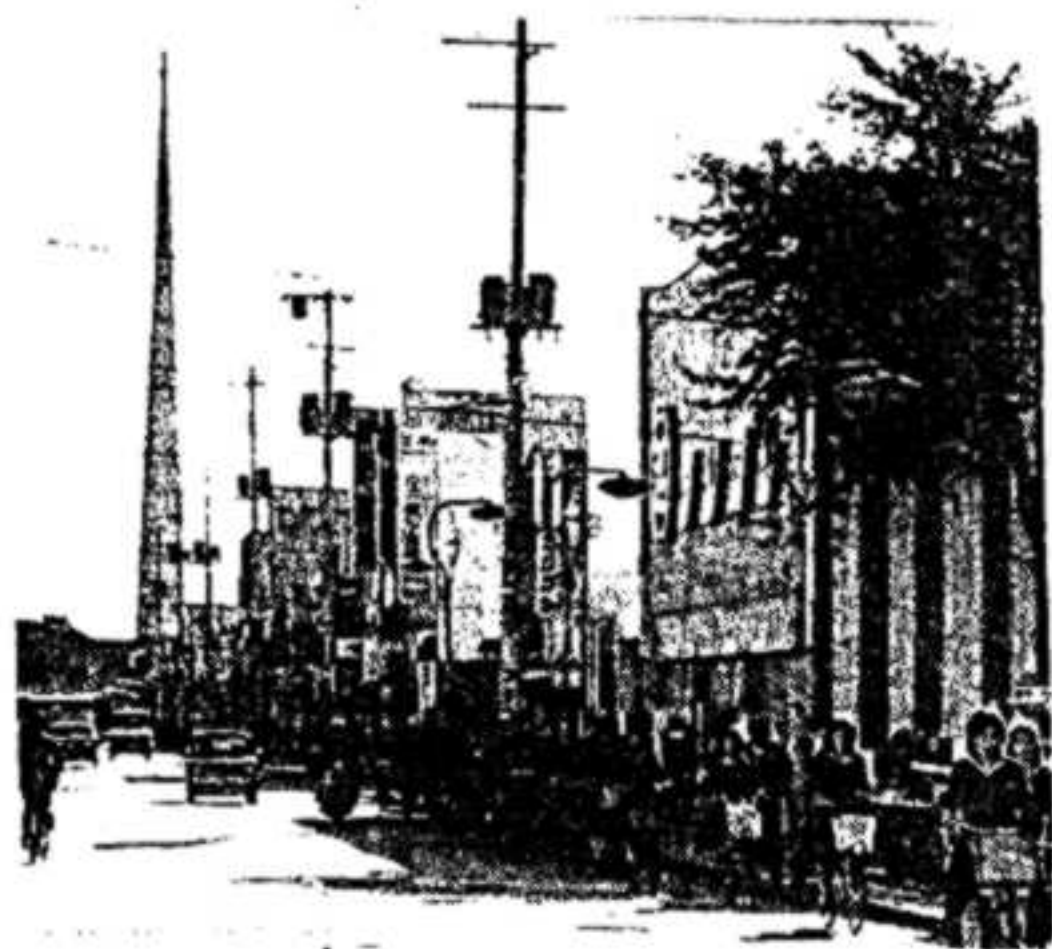
なんにもないから ここはいいところなんです  
 原町の人が言いました。

○この詩は二六年前の昭和五十六年十月三日、「福島県詩祭」で原町市を訪ねた詩人石垣  
 りん(一九二〇(大正九)年〜二〇〇四(平成一六)年・東京生まれ)の作品。  
 ○当時、まだ原町市にそびえていた「無線塔」の話聞き、大正十二年の関東大震災を思い  
 出し、そこにタイムスリップさせて、四歳で死別した生母のかすかな記憶をたどっています。  
 ○この詩の「お銚子片手」の方、そしてもう一方の最後の二行の「なんにもないから  
 ここはいいところす」と嬉しいことを言われた方は、皆さんご存知の方かも?

○ところで、石垣りんは二〇〇四  
 (平成一六)年十二月二十六日、八十四  
 歳で死去します。偶然ですが、なんと  
 その翌日、平成の大合併で「原町市」  
 の名が消えてしまい、「南相馬市」と  
 いう味気ない市名に決まってしまうま  
 す。この詩と石垣りん「原町市」と  
 の不思議な縁を感じます。

左の写真は昭和50年、原町駅通りの原高生の登校  
 風景です。電車通学のチャリンコ生の集団で、自転車の  
 行列で駅通りは「北京通り」といわれたことも。◇左手  
 の「無線塔」は高さ200Mの無線電信塔で、大正10年  
 に建設され昭和56年に取り壊されるまで原町市のシンボ  
 ルでした。◇大正12年9月1日の関東大震災の時、日本  
 から初めてアメリカにその惨状を第一報として打電し、そ  
 れから世界各国による救援活動が始まったことは有名。

◀「原町高校卒業アルバム 1976」より



○月刊の「相馬市九条の会」ニュースは本格的な全8ページ紙面で、多彩な情報が満載されています。詩や  
 俳句や歌も載っていてホッとします。ネットの「相双地区九条フォーラム」で簡単に読むことができます。  
 そこで私たちもそれを見習い、今年最終号には上のように石垣りんの有名な「原町市にて」という詩を  
 載せてみました。現在、何かと問題山積の我が愛する「はらまち」について、考えてみましょう!

# 宮崎知事「徴兵制あつてしかるべき」

宮崎県の東国原英夫知事は28日、宮崎市の知事公舎であった若手建設業者らとの懇談会で「徴兵制があつてしかるべきだ。若者は1年か2年くらい自衛隊などに入らなくてはいけないと思つている」と述べた。記者団に真意を問われた知事は発言を撤回せず、

## 懇談会で持論

「若者が訓練や規則正しいルールにのつた生活を送る時期があつた方がいい」と持論を展開した。懇談会には県建設業協会青年部の地域代表ら12人が参加。若手の育成方法などが議論になり、知事が個人的意見として語つたという。

懇談会の終了後、知事は「道徳や倫理観などの欠損が生じ、社会のモラルハザードなどにつながつてきている気がする」と言及。「軍隊とは言わないが、ある時期、規律を重んじる機関で教育することは重要だと思つている」と語つた。

▲2007年11月29日『朝日新聞』

## 東国原知事発言 許せぬ「徴兵制」

南会津町・山口久之助 (無職 77) 宮崎県の東国原知事が、冗談でも言つてはならない発言をした。徴兵制により今の若者を鍛えてはという内容である。これには私も

目をさすってしまった。知事としての識見があるか、と怒りさえ覚えた。明治六年、徴兵制が施行された。その後、日清、日露、太平洋戦争へと突き進み、青年は「泥水をすすり、草をはみ」の戦に明け暮れ、後に残された弱者も血の出るような毎日だった。私の三人の兄も「赤紙一枚」で

徴兵され、苦勞した。今、守屋武昌前防衛事務次官問題で国が騒然としてゐる。イラクでは航空自衛隊が航空機による生死を懸けた輸送を行っている。このようなときに宮崎県の代表者が「徴兵」などと口にすべきではあるまい。若者を「徴兵制」によって強者にするには許せる発言ではない。別な手段により若者を鍛えるべきではなからうか。何か東国原知事の地金がだんだん出てきたように考える。

▲2007年12月7日『福島民報』投書

# どう思われますか？ 宮崎知事「徴兵制発言」

「若者は1年か2年、自衛隊に入らなくてははいけない」だなんて

## 「徴兵で教育」 知事は不見識

団体職員 吉田 良明 (東京都江東区 46歳) 宮崎県の東国原知事が「若者には規律を重んじる機関での教育が必要。徴兵制があつてもいい」との趣旨の発言をした。軍隊は国家が理不尽な侵略に対抗するため必要悪として保有する暴力装置であり、倫理教育の役割を期待するなど不見識にもほどがある。徴兵制により形成された旧日本軍では、上官のリンチが横行した。秩序は恐怖によって保持されたに過ぎず、前線では婦女暴行などの不祥事も発生したし、敗戦時には多くの軍物資が横領隠匿された。激戦地では

仲間の肉を食べ、飢えをしのいだという話まで聞く。これで知事の言う倫理、友情、規律の教育効果があつたと言えるのか。世間の反発に慌てたか、知事は発言翌日「徴兵制ではなく、農業を強制的に体験させる徴農制が良い」と主張を修正したが、恥の上塗りだ。文化大革命時の中国には「下放」と称し、インテリを農村で強制労働させる徴農制が実在したが、それは教育効果どころか経済・科学技術などあらゆる面でその後の中国に低迷をもたらす原因となった。強制労働には教育効果など無いというのが歴史の教訓だ。その程度の認識もなく放言する知事の政治家としての資質を疑う。

▲2007年12月7日『朝日新聞』投書

## 東国原知事発言 賛意の声も多い

石川町 深谷 恒生 74 農業 東国原宮崎知事の「徴兵制」の弁が、物議を醸している。徴兵という言葉は若者には聞き慣れない言葉であろう。しかし、東国原知事の真意を考えると、そんなにくじらを立てるほどでもない。知事は「あくまでも個人的に」と前置きし「徴兵制を容認しているものではない」と弁明している。若者に欠けている分野をなんとかしなければ、という思いからのようである。学校教育が卑弱(ひよわ)

になつていいる現在、心身鍛錬の場が見当たらないのも事実である。人間生活の基盤である道徳観の崩壊は、社会にさまざまな弊害を生んでいる。道徳観を基盤整備するにはさまざまなルートがあり、その一つが東国原知事の考え方であろう。ところが、大方の日本人は「徴兵制すなわち戦争」という結びつきを考えてしまひ、アレルギー体質から脱却できない節がある。そのため、ちょっとした発言が曲解されるきらいがある。現在の日本人の道徳観を考えた時、今回の東国原知事の考えに「そうだ」と賛意を示す人も、決して少なくないであろう。

▲2007年12月5日『福島民友』投書

## 徴兵制の実態 知つての上か

無職 伊東 一 (長崎市 93歳) 徴兵検査から話を始めよう。20歳になると日本男子は全国一斉に徴兵検査が始まる(学生は卒業まで入営延期)。紋付き袴、越中ふんどしで出頭、性器の検査までして甲種合格、盛大な歡送を受けて入隊。私は昭和9年兵と呼ばれる。上等兵、古年兵から1年間、夜ごと夜ごとの暴力による「しつけ」教育である。言語を絶するいろいろな暴力、1年が過ぎて先輩が満期除隊すると新兵の後輩が入隊する。

こうした2年間の兵營生活が徴兵制の実情だった。服従はあつたが協力も理解もなかった。私の戦友の大半は、後にノモンハン事件で戦死してしまつた。これはごく普通の徴兵制による兵營生活の一例であるが、東国原宮崎知事は徴兵制の集團生活の実情をご存じだったのだろうか。自民党の新憲法草案も、さすがに徴兵制には触れていないが、靖国神社の神々と防衛族と称される人たちは、東国原知事発言に驚きながら大賛成だろう。東国原知事には好意を持つていただけに、もう一度徴兵制について研究してほしい。

▲2007年12月11日『朝日新聞』投書